

Construction and Meaning of Pivotal Sentences with Verbs like “xihuan (喜欢)” in Mandarin Chinese

YOKOYAMA Masako

Keywords: pivotal sentence, non-causative, clause-object sentence,
predicate logic, formal semantics

Abstract

Pivotal sentences are grammatical constructions unique to Chinese, as distinct from clause-object sentences and double object sentences. This paper focuses on a difference between the “xihuan (喜欢)” type of pivotal sentences and the clause-object sentences, and proposes both these logical structures based on a method of formal semantics. The structures are described by predicate logic, lambda-operator and intentional-operator.

“喜欢”類兼語文の構造と意味

横 山 昌 子

要 旨

中国語文法では、「N1+V1+N2+V2」の配列で、N2が目的語と主語を兼ねる構造を持つ文は「兼語文」と呼ばれている。兼語文は使役を表すことが知られているが、同様の構造であっても使役を表さないものがある。このような非使役性の兼語文については、これらの構造を節目的語文や二重目的語文など他の構造と同一のものと見なす見解が提出されている。本論では、非使役性兼語文のうち、V1に“喜欢”（好きである）、“爱”（愛する）、“嫌”（嫌う）、“恨”（恨む）など好悪や愛憎の感情を表す動詞が用いられる文（以下、“喜欢”類兼語文と呼ぶ）を分析し、これらの文が節目的語文や二重目的語文とは異なることを論証する。兼語文や節目的語文は、統語的には補文構造を伴う構造と捉えられる。英語の補文構造の分析では、主要動詞の意味特徴により異なる構造を持つことが知られている。そこで、まずこれらの分析について参照し、“喜欢”類兼語文との対応を考察する。次に意味の角度から、“喜欢”類兼語文と節目的語文について論理構造を記述し、両者が異なる構造を持つことを示す。また、論理構造に基づき、先行研究で述べられているいくつかの問題について本論の立場から再検討する。

キーワード：兼語文 非使役性 節目的語文 述語論理 形式意味論

はじめに

趙元任（1968）が「 $(N1+) V1 + N2 + V2$ 」の配列で $N2$ が $V1$ の目的語でかつ $V2$ の主語として機能する構造を「兼語構造（pivotal construction）」と呼んで以来、このような構造を持つ文は兼語文と呼ばれている。これは、単に呼称の問題だけでなく、この構造を独立した構文として認めることを意味しているが、このような捉え方に対し当初から現在に至るまで反対を表明する意見も少なくない。50年代～60年代の反論の代表としては、史存直（1954）の主張がある。史存直は王力の提出した兼語文を含む「逡系式」（連動文）の考え方に異論を唱え、「逡系式」は二つの叙述の結合ではなく一つの叙述であり、 $V2$ は述語ではなく補語と見なすべきであると主張した。欧米の統語理論を応用した研究が盛んになった70年代～80年代には、 $N2$ が統語上目的語と主語という二つの機能を兼ねるという見方は不合理であるという観点から、構文としての独立性を否定する意見が多く出された。朱德熙（1982）は、統語上 $N2$ は $V1$ の目的語であり、兼語文は「述連構造」（連動文）の一類にすぎず、 $N2$ が $V2$ の主語であるというのは意味上の関係であると述べた。呂冀平（1979）は、兼語文の $N2 + V2$ は $V1$ の目的語であり、文を目的語とする文（本論では節目的語文と呼ぶ）に分類できると主張した。この他、このような文を二重目的語文や緊縮文とする考えもある。また、兼語文は使役を表すことが知られているが、 $N2$ が主語と目的語を兼ねる同様の構造であっても使役を表さないものがある。このことから、兼語文を独立した構文として分析する立場においても、どこまでを兼語文と定義するかで意見が異なっている。筆者

は、兼語文は狭義には使役を表す文と捉えるが、広義には非使役性兼語文も含むと考える。本論では、非使役性兼語文のうち V1 に“喜欢”、“嫌”などの好悪の感情を表す動詞が用いられる類を取り上げ、分析する。

1 問題提起

横山 (2016) は、“让”、“叫”、“使”を V1 とする兼語文を単純使役兼語文、一般動詞を V1 とする兼語文を多義使役兼語文とし、これらの論理構造を分析した。これらの使役性兼語文の特徴は、第一動詞の語彙の意味と兼語構造から使役構造を構成することである。

(1) 他逼我承认。(《现代汉语八百词》: 72)

(彼が私に無理やり認めさせた。)

このような文は、朱德熙 (1982) が述べているように、統語構造的には V1V2 連続構造の連動文の一類であるといえるが、論理構造では N2 は V1 の目的語であると共に V1+V2 の結合から生じる使役の 3 項述語「CAUSE (α, β, γ)」の与格 (β) として機能する。この使役の派生は統語的派生であり、使役兼語文は分析的使役 (または迂言的使役) と捉えられる。しかし、「N1+V1+N2+V2」配列をとり、N2 が V1 の目的語でかつ V2 の意味上の主語である構造であっても、使役構造を派生しないものがある。たとえば、次のような文である。

(2) 我喜欢你老实。(《现代汉语八百词》: 563)

(私はあなたがまじめなのが好きだ。)

この文の N2 “你”は V1 “喜欢”の目的語であり V2 “老实”の意味上の主語であるが、この兼語構造は使役の意味を派生しない。これは、この文が、「私があなたを好きである」ことが「あなたがまじめである」ことを生じさせるという「原因-結果」の関係を表さないからである。このこ

とから、この文が使役構造を構成しない要因は V1 に生起する心理活動動詞“喜欢”の意味特徴によると推定できる。このような兼語構造を構成する心理活動動詞としては、“喜欢”の他に“爱”、“嫌”、“夸”、“怪”などがあるが、便宜上これらの動詞を“喜欢”類と呼ぶことにする。本論では、“喜欢”類が構成する「N1+V1+N2+V2」を非使役性兼語構造と位置付けるが、この構造を兼語構造と捉えず、節目的語をとる文とする見方もある。欣邢（2004）は、“喜欢”類は使役義を持たないので兼語文ではなく「節目的語文」と見なせるとし、次のような例文を挙げている。

（3）在路上，五嫂怪燕燕说错了话。（欣邢 2004）

（路上で、兄嫁は、燕燕が言い間違えたと言めた。）

この文を節目的語文として捉えた場合、“燕燕说错了话”が動詞“怪”の目的語となり、“燕燕”は、補文の主語としてのみ機能する。この構造から解釈される意味は、「五嫂が、燕燕が言い間違えたということを、言めた」であり、文の表す意味を正しく表しているように思える。このことは、“喜欢”類と節目的語文は意味構造上同一構造を持つことを示唆している。しかし、これまでの研究において“喜欢”類も使役兼語文と同様に V1 と N2 の間に停頓が置くことができないことが指摘されており、この事実は N2 が V1 の対格であることを示している。一方、N2 が補文の主語である「節目的語文」では V1 と N2 の間に停頓を置くことができる。このことは、両者が異なる構造を持つという主張の根拠の一つとなっている。このように“喜欢”類と節目的語文を同一の構造とする分析は、意味解釈上は問題がないように思えるが、統語構造上疑問が残る。何元建（2011）は、生成文法の枠組みで兼語文の構造を分析している。何元建は“喜欢”類を兼語文に含めているが、V1 に後続する補文を節（文）ではなく小節であると主張している。英語の埋め込み節を含む文の分析は、生成文法の理論の発展と共に多くの議論を通して修正されてきた。中国語は

補文標識の表層形式がないため、定形節と非定形節の区別が明確でないが、中国語の節目的語文は定形節に対応し、兼語文は非定形節に対応していると推定される。英語の非定形節の構造分析では、主要動詞のタイプによっていくつかの異なる構造を持つことが知られている。本論では、英語の非定形節を含む文の構造は主要動詞の意味特徴によって異なる構造を持つとする分析を参考に、中国語の兼語文の構造を検討する。さらに、意味の角度から“喜欢”類兼語文と節目的語文の論理構造を記述し、両者の違いを考察する。論理構造の記述には、述語論理と命題論理を基本とした式を用いる。

2 本論における兼語文の定義と範囲

本論では、兼語文は、狭義には兼語構造を持ち使役性を表す文と考えるが、広義には非使役性の文を含む兼語構造を持つ文と規定する。また、文が構成する意味構造の違いに基づき、兼語文を使役性兼語文と非使役性兼語文に大別する。使役性兼語文は、論理構造上使役を表す3項関数「CAUSE (α, β, γ)」を構成するが、非使役性兼語文はこのような構造を持たない。

A. 使役性兼語文

- ①単純使役兼語文： $V_1 = \{\text{让, 叫, 教, 令, 使}\}$
- ②多義使役兼語文： $V_1 = \{\text{派, 请, 强迫, 逼, 催, 要求, 命令, …}\}$

B. 非使役性兼語文

- ①“喜欢”類： $V_1 = \{\text{喜欢, 愛, 嫌, 恨, 夸, 怪, 可怜, 欺负, 原谅, …}\}$
- ②“称”類： $V_1 = \{\text{称, 称呼, 叫, 说, 封, …}\}$
- ③“有”類： $V_1 = \{\text{有, 没有}\}$

本論では、非使役性の兼語文のうち“喜欢”類を取り上げ、統語的および

び意味的角度から分析する。

3 “喜欢”類の統語的考察

兼語文と節目的語文、緊縮文 (compressed sentence)、二重目的語文など他の構文との構造の違いや近似性については、これまでにさまざまな議論がある。“喜欢”類兼語文については、特に節目的語文との区別が問題となる。そこで、本節では両構文の構造的特徴に焦点を当て考察する。

3.1 兼語文と節目的語文の区別

中国語には定形補文と非定形補文の補文標識に対応する表層形式がないため、配列が同一の兼語文と節目的語文を区別することが難しいが、両者は統語的特徴が異なることが指摘されている。

3.1.1 音声の違い

Chao (1968) は、兼語文か節目的語文かの境界線はあいまいであるとして、次のような例を挙げている。

(4) 我看见他在那儿写信。

a. I saw that he was writing a letter.

(私は彼が手紙を書いているがわかった。)

b. I saw him write a letter.

(私は彼が手紙を書いているのを見た。)

(Chao 1968:126)

Chao は、節目的語文と兼語文の区別は N2 の声調の違いに現れると指摘している。N2 が通常の声調ならば節目的語を表し、軽声ならば兼語となる。Chao によれば、これらの違いは「海塩通園方言」において顕著に

見られる¹⁾。この方言では一人称単数と三人称単数の目的格の形式 (I/me; he/him) を持つため、‘I saw that he was writing a letter.’ と ‘I saw him write a letter.’ は区別できるとしている。

3.1.2 停頓の位置

呂叔湘 (1979) は、兼語文と節目的語文は、N2 の前で停頓 (呂叔湘によれば、音を伸ばす) を入れられるかどうかで区別できるとしている。

- (5) a. 我知道—他走了。(節目的語)
 b. 你通知他—来开会。(兼語式)
 c. 我看见他—从食堂里出来。(兼語式)
 d. 我看见—他从食堂里出来。(節目的語) (呂叔湘 1979:84)

3.1.3 語順の変換

Chao (1968) は、“说”のような「発言、思考タイプ」(‘say, think’ types) の動詞は、次のように後から補足する形式をとることが可能であるが、兼語文ではこの形式はとれないと述べている²⁾。

- (6) a. 我说你就走。
 b. 我请你就走。
 (7) a. 你就走，我说。
 b. *你就走，我请。 (Chao 1968:125)

3.2 兼語文の統語構造

范晓 (2009) は、文成分と階層関係に基づき、兼語文の構造を次のように分析している。

(8) 我 叫 他 回来

(N1) (V1) (N2) (V2)

主語	述語	……主述文
	述語	補語 ……述補構造
述語	目的語	……述目構造

(范晓 2009:197)

この分析に基づく兼語文の基本構造式は、次のようなものである。

(9) $N1 + [(V1 + N2) + V2]$ (范晓 2009: 198)

范晓は、兼語文（范晓は主客兼格文と呼んでいる）を“喜欢”類を含め10類に分類しているが、これらは統語的には同一の構造を持つと分析している。また、これらの兼語文の違いは語用論的意味にあると述べ、「使役文」、「原因文」、「呼称文」、「所有存在文」の4つに分け、“喜欢”類については「原因文」に属するとしている。

(10) 他批评小明好吃懒做。(范晓 2009: 203)

(彼は小明を食いしん坊で怠け者だと批判した。)

范晓は、“喜欢”類兼語文について、これを二重目的語文とする主張および節目的語文とする主張を共に否定している。しかし、ある動詞では、意味的な多義性から、文脈により兼語文を構成したり節目的語文を構成したりすると述べている。たとえば、次のような文である。

(11) 他们嫌我太脏。(唐栋, 范晓 2009: 216)

(12) 我嫌那两件衣服太花。(朱自清, 范晓 2009: 216)

范晓によれば、(11)の文の“嫌”は「嫌う」の意で兼語文に属し、(12)の文の“嫌”は「不満に思う」の意で節目的語文に属す。范晓は、動詞“嫌”はN2が人であれば「嫌う」の意を表し兼語文を構成し、N2が物であれば「不満に思う」の意を表し節目的語文を構成すると述べている。

3.3 兼語文の N2 の統語的位置の問題

前述の范晓の階層的文成分分析では、兼語文の N2 は目的語である。しかし、この分析は英語の伝統的な 5 文型による分析とあまり違いがない。英語の伝統文法では不定詞補文をとる文は第 5 文型の「SVOC」として分析されてきた。

- (13) I {expected/persuaded} [John] [to be aggressive].
 S V O C

(栁原・松山 2001:91)

しかし、主節動詞に後続する名詞句を主節動詞の目的語としてのみ扱う SVOC 分析では、それらの主語性を記述できないことから、GB 理論では主節動詞の意味特徴に注目した分析がなされている。以下では、主語性と目的語性の両方の性質を持つ中国語の兼語 (N2) の統語的位置をどのように捉えるべきかを考えるために、英語の「NP to VP」型補文の分析を参照する。

3.3.1 「NP to VP」型補文

栁原・松山 (2001) によれば、目的語を含む「NP to VP」補文を従える動詞には、①思考・認識の意味を表す動詞 (assume, believe, conceive, consider, expect, figure, feel, know など)、②強制・要求・命令の意味を表す動詞 (ask, assign, challenge, compel, encourage, force, oblige, order, persuade など)、③好悪や願望など人間の感情を表す動詞 (desire, hate, like, love, prefer, want, wish など) の三つのタイプがある。栁原・松山は、それぞれを believe 類、persuade 類、want 類と呼んでいる。GB 理論による分析では、believe 類と persuade 類の補文は、次のような D 構造を持つとされる。

- (14) a. John believed [Mary to be aggressive].

b. John persuaded [_{NP} Mary] [_{PRO} to leave].

(栞原・松山 2001:94)

(14b) の補文中の PRO は目的語 (NP) によってコントロールされるので、このような補文は目的語コントロール補文と呼ばれる。NP の対格性について考えたとき、persuade 類の NP は D 構造で主節の目的語の位置を占めるので問題ないが、believe 類の NP は D 構造で補文主語位置にあり (このような名詞句は対格主語 (accusative subject) と呼ばれる)、どのように対格を付与されるのかが問題になる。これについては、二つの考えが提出されている。一つは、D 構造から S 構造への派生の段階で、補文主語位置から主節の目的語位置に繰り上がるとする考えである。この移動は、「主語から目的語への繰り上げ」(Subject-to-Object Rising: SOR) と呼ばれる。

(15) I believed him_i [_{t_i} to be a fool].

↑SOR

もう一つは、境界線を越えて主節動詞から格を付与されると考えるもので、これは「例外的格付与」(Exceptional Case-Marking = ECM) と呼ばれる。

(16) I believed [_{IP} him to [_{VP} be intelligent].

CASE ↑

want 類も、believe 類と同様に、主節主語を外項に、「NP to VP」の連鎖を内向にとる 2 項述語である。しかし、want 類は、好悪や願望といった人間の感情を表すため、その補文は話し手の主観的あるいは感情的な反応を表すという点で、思考・認識を表す believe 類とは異なり、統語的に異なる特徴を持つとされる。want 類の構造について、栞原・松山は Bresnan (1972) の分析が妥当だとしている。この分析では、want 類の for 付きの不定詞補文の主語が、for によって格付与されるように、want

類の対格主語もゼロ補文標識で格付与され则认为られている。

- (17) a. I preferred [_{CP} for Mary to do this at once].
 b. I preferred [_{CP} ϕ for Mary to do this at once].

(栞原・松山 2001:109)

この分析では、want 類の対格主語は、移動せずに補文主語位置に留まっていると考えられている。

3.2.2 中国語の使役兼語文の構造

前述のように、英語の「NP to VP」型補文は動詞の特徴から三つのタイプに分類されているが、②の「強制・要求・命令の意味を表す動詞」(persuade 類)は中国語では使役兼語文を構成する。温丽婷 (2011) は、中国語の使役兼語文の構造を、persuade 類と同様の目的語コントロール補文を伴う文と分析している。

- (18) 我强迫他完成任务。(温丽婷 2011)

- (19) 我强迫他_i PRO_i完成任务。(温丽婷 2011)

句構造を [] を用いて表記すると、次のようになる。

- (20) 我强迫 [_{NP} 他] [PRO 完成任务]。

3.3.3 “喜欢”類兼語文の統語構造

中国語の兼語構造を持つ“喜欢”類は、動詞の意味特徴から考えると、英語の「NP to VP」型補文の「好悪や願望など人間の感情を表す動詞」(want 類)に対応する。しかし、中国語の兼語文では、for に対応する顕在的な補文標識が現れることはないので、“喜欢”類をゼロ補文標識 ϕ for を持つ構造として分析するのは妥当ではない。何元建 (2011) は、“恨、爱、要求、要”のような動詞に後続する補文は、節 (単文) ではなく小節であると分析している。何元建は、一般に節の統語範疇は CP だが、小節

は VP あるいは IP で、小節主語の代名詞は主節主語を同一指示できないと述べている。

(21) a. 张三_i恨 [他_{*i/j}不成器]。

b. 张三_i爱 [他_{*i/j}风流]。 (何元建 2011:213)

何元建は、これらの動詞を ECM 動詞³⁾とし、ECM 動詞が小節内の小節主語に対格を付与するという見方を示した。

3.3.4 本論の見方

本節では、“喜欢”類兼語文の兼語 (N2) が持つ主語的性質と目的語的性質を統語構造上どのように考えればよいのかという視点から考察した。本論では、“喜欢”類兼語文は、何元建が提示したように、主節動詞が小節を補部とする構造で、N2 は小節内にあり、主節動詞から対格を付与されると考える。何元建は使役動詞も小節を補部とするとしているが、使役性兼語文は項構造としては3項なので、目的語コントロール補文を伴う構造と考えるのが妥当である。また、中国語の“说”、“觉得”、“相信”などの節目的語内の主語は対格性を持たないので、英語の不定詞節 (believe 類) のような構造をとることはなく、定形節と同様の構造を構成すると捉えるべきである。

4 “喜欢”類兼語文の論理構造

本節では、“喜欢”類兼語文と典型的な節目的語語文の論理構造を記述し、両者の違いを意味の側面から明らかにする。意味の記述には、述語論理⁴⁾と命題論理⁵⁾を基本とする論理式を用いる。述語論理の論理表現の表記は、述語のみにプライム「'」を付す略記方式とする。

4.1 “喜欢”類兼語文と節目的語文の論理構造

二つの文の違いを明確にするために、意味の面から、“喜欢”類兼語文と節目的語文の論理構造を記述してみよう。例文として次の文を取り上げる。

(22) 张三恨他不成才。

(張三は彼が有用な人間になれないことがいまいましい。)

(23) 张三说他不成才。

(張三は彼が有用な人間になれないと言う。)

(22) の文は、本論では動詞“恨”(いまいましい)が兼語“他”を伴う兼語文と捉える。(23) は、動詞“说”(言う)が文(節)“他不成才”(彼が有用な人間になれない)を伴う節目的語文である。以下では、これら二つの文がどのような論理構造として捉えられるかを検討する。

4.1.1 節目的語文

初めに、(23) の文の論理構造を記述する。この文の主要動詞“说”は、主語“张三”と文“他不成才”を項にとる2項述語と捉えられる。従属する文を命題 q として、述語論理で表すと、次のように表記できる。

(24) 说'(张三, q)

次に、命題 q は、“成才”を述語とし“他”を項にとる1項述語の否定なので、否定記号「 $\neg$ 」を用いて「 $\neg$ 成才'(他)」と表記できる。この式を q に代入すると、文全体の式は次のようになる。

(25) 说' {张三, $\neg$ 成才'(他)}
言う ~ガ ~トイウコトヲ

この式で、「说'」は2項関数として機能し、「张三」と「 $\neg$ 成才'(他)」の間の関係を表している。「张三」が指示するものは現実世界の個体としての「张三」であり、「 $\neg$ 成才'(他)」が指示するものは命題の真理値で、

{0, 1}（真か偽か）である。つまり、この式では“说”（言う）の対象は真偽が決定可能な命題である。命題は事態を表すが、「言う」という発言行為が実際に行われるときには、発言の内容である事態が真であることは話者によって決定されているので、真理値は1（真）となる。このように、“说”という発言行為の対象は、話者がある事態が存在すると判断している内容であり、この式は「張三が、彼が有用な人間になれないということと言う」という意味を表す。

この式の意味解釈では、従属節の命題の真理値を1（真）と判定したが、この解釈の過程は正確ではない。より解りやすく議論するために、この文の主要動詞を“想”（思う）に替えた次の文を考えてみよう。

(26) 张三想他不成才。

（張三は彼が有用な人間になれないと思う。）

Chao (1968) が指摘しているように、中国語の“说”、“想”などの「発言、思考」動詞は、節を目的語にとる典型的な動詞である。自然言語と世界の有様の対応を意味と規定する形式意味論では、believe などの動詞は「内包的文脈」(intentional context) を作り出すとされている。たとえば、次の文を比べてみよう。

(27) a. There is a unicorn in the garden.

b. John believes that there is a unicorn in the garden.

(杉本 1998:103-104)

(a) の文では、この文が表す「ユニコーンが庭にいる」という内容は偽であるといえる。しかし、(b) の文はどうであろうか。(b) の文は、従属節 “there is a unicorn in the garden” が真であっても偽であっても “John believes [...]” という状況は成立してしまう。つまり、人が何かを信じているというときに、その対象である [...] 内の命題はどのようなものであってもよいことになるが、問題はこのような信念の対象は意味論的

にどのように規定されるのかということである。形式意味論ではこのような信念の対象となる命題は「内包」を表すと捉え、内包を対象とする believe のような動詞は「内包動詞」と呼ばれる。

このような考え方からすると、従属節を目的語にとる“说”や“想”も「内包動詞」といえる。形式意味論では、内包の記述には内包演算子[^]と外延演算子[∇]が用いられる。そこで、これらの演算子を用いて(23)の文を記述してみよう。(23)の文は次のように記述される。

(28) 说' {张三, [^]¬成才' (他)}

この式では、“说”(言う)の対象である「¬成才' (他)」(彼が有用な人間になれない)という命題が内包を表すことが内包演算子[^]によって表記されている。この式は、「彼が有用な人間になれないというのは現実では確定できないが、張三はそうに思ってた」という意味を表している。内包は、指標(可能世界 W、時間 t)が与えられることで外延の意味(現実世界での指示対象)を決定できる。この文について考えてみると、「張三が〜と言う」という行為は“张三”の意思的なものなので、発話内容の真偽は“张三”によって決定できる。つまり、“张三”は「彼が有用な人間になれない」ということを真として言っていると理解できる。そこで、この式は次のよう記述できる。

(29) 说' {张三, [∇][^]¬成才' (他)}

この式では、「说'」が「[^]¬成才' (他)」に外延演算子[∇]を付与している。これにより“说”(言う)という発話行為によって「[^]¬成才' (他)」という命題の内包が外延化されることを表す。内包演算子[^]は外延演算子[∇]によって打ち消されるので(ダウン・アップ打ち消し)、最終的に次のような式に書き換えられる。

(30) 说' {张三, ¬成才' (他)}

この式は初めに提示した式と同じである。本論では、このように“说”

や“想”が構成する節目的語文の意味を、真偽決定可能な命題を対象に持つ文と分析する。

4.1.2 “喜欢”類兼語文

次に、(22)の“喜欢”類兼語文“张三恨他不成才”の論理式を記述してみよう。本論では“喜欢”類兼語文の統語構造は、2項動詞が小節を伴う構造と仮定した。すなわち、兼語“他”は小節の目的格主語として小節内に留まる。これに基づき、この文の論理構造を記述すると、次のようになる。

(31) 恨' (张三, q)

この式の q には小節“他不成才”が表す意味が入るが、これを命題として述語論理で記述すると前述と同様「 $\neg$ 成才' (他)」となる。この式を q に代入すると、全体の式は次のようになる。

(32) 恨' {张三, $\neg$ 成才' (他)}
 イマイマシイ ~ガ ~トイウコトガ

この式の「 $\neg$ 成才' (他)」の指示物は命題（の真理値）であるので、この式は「張三が、彼が有用な人間になれないということがいまいましい」と解釈される。しかし、この式は(22)の文の意味を正しく表しているのかという疑問が生じる。この式では、「恨'」という述語の対象が命題「 $\neg$ 成才' (他)」として記述されているが、“恨”（いまいましい）という感情を表す動詞は“说”（言う）のように命題を対象としているのだろうか。この文の“恨”は主観的な感情を表しているが、「彼が有用な人間になれない」ということをいまいましく思っているのではなく、彼が持つ「有用な人間になれない」という「属性」をいまいましく思っているのである。つまり、感情を表す動詞“恨”の対象は、命題ではなく属性といえる。そこで、“恨”の対象を属性と捉え、“张三恨他不成才”の論理構造を記述し

てみよう。形式意味論では、たとえば John (j と表記) という人間は「j という個体を持つすべての属性の集合」と捉える。属性を P とし、ラムダ (λ) 演算子を用いて表すと、John の表現式は「 λ PP (j)」のようになる。さらに、属性は文脈によって変わることのないもの（つまり内包的なもの）なので、内包論理を導入し、次のように表記する。

$$(33) \lambda P^{\vee} P (j)$$

この式は、j という個体の持つ属性（内包）の集合を表す。この式を適用して、“他”を“他”が持つ属性（内包）の集合として記述すると次のような式になる。

$$(34) \lambda P^{\vee} P (\text{他})$$

“恨”は“他”の持つ属性を対象としているので、次のような論理関係として記述できる。

$$(35) \text{恨}' \{ \text{张三}, \lambda P^{\vee} P (\text{他}) \}$$

この文では、“他”の持つ属性の情報は“不成才”なので、P の値は「 $\wedge \neg \text{成才}'$ 」として与えられる。

$$(36) \text{恨}' \{ \text{张三}, \lambda P^{\vee} P (\text{他}) (\wedge \neg \text{成才}') \}$$

この式をラムダ演算すると、次の式が得られる。

$$(37) \text{恨}' \{ \text{张三}, {}^{\vee} \wedge \neg \text{成才} (\text{他}) \}$$

さらに、外延演算子 $\vee$ によって内包演算子 $\wedge$ が打ち消され（ダウン・アップ打ち消し）、次のような式になる。

$$(38) \text{恨}' \{ \text{张三}, \neg \text{成才} (\text{他}) \}$$

このように、「恨'」の第2項に「 $\lambda P^{\vee} P (\text{他}) (\wedge \neg \text{成才}')$ 」を入れた論理式は、演算をすると、節目的語文“张三说他不成才”の第2項の式と同じ「 $\neg \text{成才} (\text{他})$ 」となってしまう。「 $\neg \text{成才} (\text{他})$ 」は真偽が決定可能な命題（の真理値）を示しているのので、この式は感情を表す“恨”の対象が命題ではなく属性そのものであるとする仮定を正しく記述していない。そ

こで、第2項の「 $\neg$ 成才（他）」を、真偽が決定可能でない命題（すなわち内包）として、内包演算子 $\wedge$ を付し「 $\wedge \neg$ 成才（他）」と捉えなおすことにする。これにより、最初の式は次のように変更される。

(39) 恨' {张三, $\wedge (\lambda P \vee P(\text{他}) (\wedge \neg \text{成才}'))$ }

この式に対し、 λ 変換とダウン・アップ打ち消しの演算を行うと、次のような式が得られる。

(40) 恨' {张三, $\wedge \neg$ 成才（他）}

この式の第2項「 $\wedge \neg$ 成才（他）」は、「彼」が持つ「有用な人間になれない」という属性を持つことが現実では決定されていないが属性として概念的に存在することを表す。つまり、この式は「張三が、彼が有用な人間になれない（という属性をもっている）ことがいまいましい」と解釈できる。このように、“喜欢”類兼語文と節目的語文では、主要動詞が対象とする従属節の意味が異なる。節目的語文では、「言う」という発言の対象は従属節が表す命題（の真偽）あるが、“喜欢”類兼語文では、従属節の対格主語の持つ属性が「いまいましい」という感情の対象となっている。第2項が内包のまま記述されているのは、「彼の属性」を張三が決定できないためである。

4.1.3 論理式の検証

本論では、節目的語文と“喜欢”類兼語文の主要動詞 V1 の対象物（すなわち2項述語の第2項に生起する式が指示するもの）は、節目的語文では命題（の真偽）であり、“喜欢”類兼語文では固有名詞（あるいは代名詞）が持つ属性の内包であるという仮定を提案した。この仮定について、二つの文の統語的ふるまいの違いに着目し、検証する。何元建（2011）は、兼語文と節目的語文の違いについて、先に述べた「停頓の位置」や「語順の変換」の他に、次のような点を指摘している。

何元建によれば、兼語文⁶⁾では焦点標識の“是”を挿入できない。

(41) 张三恨 [他不成器]。／*张三恨 [是他不成器]。

何元建は、焦点標識の“是”を挿入できないのはこの節が小節だからであり、もし節（単文）であるならば“是”を挿入できると述べている。

(42) a. 张三说 [是他不成器]。

b. 李四觉得 [是她很感动]。

中国語において、焦点標識の“是”は焦点を明示する機能を持つとされ、(42a)の文では“他”を、(42b)の文では“她”を焦点化している。しかし、本論ではこの“是”は焦点表示の機能とは別に、文全体の意味の構成においても意味的役割を果たしていると考える。(42a)の文では、“他不成器”は、真偽が決定可能な命題である。“他不成器”の前に生起している“是”は命題“他不成器”の真偽 $\{0,1\}$ が1であることを表示していると捉えることができる。実際に“他不成器”の真偽を決定しているのは“说”（言う）が持つ意味特徴であるが、“是”はそれを顕在的に表示している。つまり、“是”は「断定表示」としての機能を持つ。

断定 (= 1)
└──────────┘
(43) 张三 说 [是 他不成器]
断定表示

一方、(41)の文で焦点標識“是”が挿入できないのは、“他不成器”が命題の内包を表すため、動詞“恨”が“他不成器”の真偽を決定できないからである。

×断定 (= $\{0, 1\}$)
└──────────┘
(44) 张三 恨 [他不成器]
×断定表示

4.2 例文の分析

兼語に前置される“喜欢”類動詞(V1)としては、“喜欢”、“爱”、“嫌”、“恨”、“夸”、“怪”、“可怜”、“欺负”、“原谅”などの動詞が含まれる。以下では、これらの兼語前動詞を用いた例文を取り上げ、分析することにする。

4.2.1 V1 = 喜欢

兼語前動詞(V1)が“喜欢”の文には、次のような例がある。

(45) 我喜欢他聪明。(王砚农・他 1984)

(私は彼が聡明なのが好きだ。)

(46) 群众喜欢他办事公道。(刘月华・他 2001)

(群众は、彼が仕事ぶりが公正であるのが好きだ。)

まず、(45)の文の論理構造を記述しよう。この文のV1“喜欢”は、個体“我”と式“他聪明”を項にとる2項述語と捉えられるので、述語論理を用いて「喜欢'(a, q)」と表記できる。qには“他聪明”の論理表現が入る。これを述語論理とラムダ(λ)演算子を用いて表記すると「 $\lambda P^{\vee}P$ (他)($\wedge$ 聪明')」となる。感情を表す2項動詞“喜欢”は論理構造の第二項に内包を要求する。「 $\lambda P^{\vee}P$ (他)($\wedge$ 聪明')」の内包は、内包演算子($\wedge$)を用いて「 $\wedge(\lambda P^{\vee}P$ (他)($\wedge$ 聪明))」と表記できる。この式を「喜欢'(a, q)」の第2項に、「我」を第1項に代入すると、全体の式は次のようになる。

(47) 喜欢'[我, $\wedge[\lambda P^{\vee}P$ (他)($\wedge$ 聪明')]]

Pに「 $\wedge$ 聪明'」を代入し λ 演算すると、次のようになる。

(48) 喜欢'[我, $\wedge\wedge$ 聪明'(他)]

内包演算子($\wedge$)は外延演算子($\vee$)によって打ち消されるため(ダウン・アップ打ち消し)、最終的に次のような式になる。

(49) 喜欢' [我, ^聪明' (他)]

この式は、「我」と「聪明' (他) の内包」の間に「喜欢'」という関係があることを表している。「聪明' (他) の内包」は「他」の属性を表すので、この式は、「私は、彼が聪明である (という属性を持っている) ことが好きだ」という意味を表す。

同様に、(46) の文も次のように論理表記できる。「→」は演算の結果を表す。

(50) 喜欢' [群众, ^ [λ P[∨]P (他) (^办事公道')]]

→喜欢' [群众, ^∧^办事公道' (他)] (λ 演算)

→喜欢' [群众, ^办事公道' (他)] (ダウン・アップ打ち消し)

4.2.2 V1 = 爱

兼語前動詞 (V1) が“爱”の文には、次のような例がある。

(51) 我爱他勤奋好学。(《现代汉语八百词》)

(私は彼が勤勉で学問好きなところが好きだ。)

(52) 我爱那个地方安静。(王小鹰, 范晓 2009)

(私はあそこが静かなのが好きだ。)

(51) の文の論理構造を記述する。“爱”は「～ガ～ヲ愛スル」という2項述語「爱' (我, q)」として記述できる。第2項 q には非定形節の“他勤奋好学”の論理表現が入る。“他勤奋好学”(彼は勤勉で学問好きである)は“他”の属性を表すので、「^ [λ P[∨]P (他) (^勤奋好学')]]」と表記できる。これを「爱' (我, q)」の q に代入すると、全体の式は次のようになる。

(53) 爱' [我, ^ [λ P[∨]P (他) (^勤奋好学')]]

この式をλ演算すると、次のような式になる。

(54) 爱' [我, ^∧^勤奋好学' (他)]

内包演算子が、外延演算子によって打ち消される（ダウン・アップ打ち消し）ので、最終的に次のように書き換えられる。

(55) 爱' [我, ^勤奋好学' (他)]

この式は、「私は彼が勤勉で学問好きである（という属性を持っている）ことを愛する」という意味を表す。同様に、(52) の文は次のように論理表記できる。「 $\rightarrow$ 」は演算の結果を表す。

(56) 爱' [我, ^ [λ P $\vee$ P (那个地方) (^安静')]]

$\rightarrow$ 爱' [我, ^^^安静' (那个地方)]

$\rightarrow$ 爱' [我, ^安静' (那个地方)]

4.2.3 V1 = 嫌

V1 = 嫌の兼語文には次のような例がある。

(57) 那么水灵一个姑娘，你嫌人家穷。(鄂华，范晓 2009)

(あんなにみずみずしい娘なのに、あなたは彼女が貧しいのを嫌う。)

(58) 大家都嫌他说话啰唆。(刘月华・他 2001)

(皆彼が話が回りくどいのを嫌っている。)

(57) の例文の“你嫌人家穷”の部分を取り出し、論理構造を記述してみよう。この文の“嫌”は、述語論理を用いて2項述語「嫌' (你, q)」として表記できる。第2項 q には、“人家穷”の論理表現が入る。“人家穷”（彼女が貧しい）は“人家”（彼女）の属性を表すので、ラムダ (λ) と内包演算子 $\wedge$ を用いて、「 $\wedge$ [λ P $\vee$ P (人家) (^穷')]」と表記できる。この式を「嫌' (你, q)」の q に代入すると全体の式が得られる。

(59) 嫌' [你, ^ [λ P $\vee$ P (人家) (^穷')]]

「(^穷')」を変項Pの値として代入する (λ 演算) と、次の式になる。

(60) 嫌' [你, ^^^穷' (人家)]

内包演算子 $\wedge$ は外延演算子 $\vee$ により打ち消される（ダウン・アップ打ち消

し) ので、最終的に次の式が得られる。

(61) 嫌' [你, ^穷' (人家)]

この式は「あなたは彼女が貧しい(という属性を持っている)ことを嫌う」という意味を表す。同様に、(58)の文は次のように論理表記できる。

(62) 嫌' [大家, ^ [λ P[∨]P (他) (^说话啰唆')]]

→嫌' [大家, ^^^说话啰唆' (他)]

→嫌' [大家, ^说话啰唆' (他)]

この他、“嫌”が用いられている文として、次のような収集例がある。

(63) 他们都不肯我玩, 嫌我长得丑。(电视剧《摩登新人类》第4集)

(彼らがみんな私と遊びたがらないのは、私が醜いのが嫌いなものよ。)

(64) 他就是嫌咱们家底子不够厚, 嫌你女儿我太年轻了, 找了一个又老又有钱的女人。(电视剧《不是不想嫁》第1集)

(彼は私たちの家の財産が少ないのが不満で、あなたの娘である私が若すぎるのを嫌って、年増で金持ちの女を見つけたのよ。)

(65) 宋颜, 你跟我实话。你跟林超分手, 你是不是嫌他穷, 嫌他不能给你过上有钱人的生活。(电视剧《那样芬芳》第13集)

(宋顔、本当の事をいいなさいよ。あなたが林超と別れたのは、彼が貧乏なのが嫌なんじゃないの? 彼があなたに裕福な生活をさせてあげられないのが嫌なんじゃないの?)

(63)の例文の“(他们)嫌我长得丑”の部分論理式で示すと次のようになる。

(66) 嫌' [他们, ^ [λ P[∨]P (我) (^长得丑')]]

→嫌' [他们, ^^^长得丑' (我)]

→嫌' [他们, ^长得丑' (我)]

この式の意味解釈は、「彼らは、私が醜い(という属性を持っている)

ことを嫌っている。」になる。

4.2.4 V1 = 恨

V1 に“恨”が用いられている兼語文としては、次のような例がある。

(67) 我恨自己不争气 (王砚农・他 1984)

(私は自分が意気地のないことを悔やんだ。)

この文を論理表記すると次のようになる。

(68) 恨' [我, $\wedge$ [λ P $\vee$ P (自己) ($\wedge$ 不争气')]]

→恨' [我, $\wedge\wedge$ 不争气' (自己)]

→恨' [我, $\wedge$ 不争气' (自己)]

この式の意味解釈は、「私は、自分が意気地がない（という属性を持っている）ことを悔やむ。」になる。

4.2.5 V1 = 夸

V1 に“夸”が用いられている兼語文としては、次のような例がある。

(69) 我妈总夸你穿着色彩不俗，很有美术细胞。(王小鹰，范晓 2009)

(母はいつもあなたが身なりがあか抜けていて、美的才能があると褒める。)

この文の“我妈夸你穿着色彩不俗”を論理表記すると次のようになる。

(70) 夸' [我妈, $\wedge$ [λ P $\vee$ P (你) ($\wedge$ 穿着色彩不俗')]]

→夸' [我妈, $\wedge\wedge$ 穿着色彩不俗' (你)]

→夸' [我妈, $\wedge$ 穿着色彩不俗' (你)]

この式の意味解釈は、「お母さんは、あなたが身なりがあか抜けている（という属性をもっている）ことを褒める。」になる。

4.2.6 V1 = 怪

V1に“怪”が用いられている兼語文としては、次のような例がある。

(71) 就怪你太任性了。(王砚农・他 1984)

((それは) あなたがわがまますぎるせいだ。)

この文の“怪你太任性了”の部分を論理表記すると次のようになる。

(72) 怪' [ϕ , $\wedge$ [λ $P \vee P$ (你) ($\wedge$ 太任性了')]]

→怪' [ϕ , $\wedge \vee \wedge$ 太任性了' (你)]

→怪' [ϕ , $\wedge$ 太任性了' (你)]

この式の意味解釈は、「あなたがわがまますぎる（という属性を持っている）ことを咎める」になる。

4.2.7 V1 = 可怜

V1に“可怜”が用いられている兼語文としては、次のような例がある。

(73) 五舅母去年就当面笑过我一次，我一点也不觉得什么，我只可怜她没有知识。(曹禺: 李临定 2011)

(私はただ彼女が無知なのをかわいそうに思った)

この文の“我可怜她没有知识”の部分を論理表記すると次のようになる。

(74) 可怜' [我, $\wedge$ [λ $P \vee P$ (她) ($\wedge \neg$ 有知识')]]

→可怜' [我, $\wedge \vee \wedge \neg$ 有知识' (她)]

→可怜' [我, $\wedge \neg$ 有知识' (她)]

この式の意味解釈は、「私は、彼女が無知である（という属性を持っている）ことをかわいそうに思う。」になる。

4.2.8 V1 = 欺负

V1に“欺负”が用いられている兼語文としては、次のような例がある。

(75) 他欺负我人生地不熟。(曹禺: 李临定 2011)

(彼は、私が人も土地もよく知らないことを馬鹿にする。)

(76) 欺负' [他, $\wedge$ [λ P^vP (她) ($\wedge$ 人生地不熟')]]

→欺负' [他, $\wedge\wedge$ 人生地不熟' (我)]

→欺负' [他, $\wedge$ 人生地不熟' (我)]

この式の意味解釈は、「彼は、私が人も土地もよく知らない（という属性を持っている）ことを馬鹿にする」になる。

4.2.9 V1 = 原谅

V1に“原谅”が用いられている文としては、次のような例がある。

(77) 我们原谅他年纪小, 没经验。(刘月华・他 2001)

(私たちは、彼が若くて経験がないから許す。)

この文を論理表記すると次のようになる。“年纪小”と“没经验”は分けて記述する。

(78) 原谅' [我们, $\wedge$ [λ P^vP (他) ($\wedge$ 年纪小没经验')]]

→恨' [我们, $\wedge\wedge$ 年纪小没经验' (他)]

→恨' [我们, $\wedge$ 年纪小没经验' (他)]

この式の意味解釈は、「私たちは、彼が若くて経験がない（という属性を持っている）ことを許す。」になる。

5 兼語文における問題の考察

以下では、先行研究で議論されている問題について、本論の立場から再検討する。

5.1 兼語文の構造のあいまい性について

李临定（2011）は、兼語文の“喜欢”類は時には二重目的語文あるいは

節目的語文と理解できることもあると述べ、次のような例を挙げている。

(79) 我喜欢他诚实、能干。(李临定 2011)

李临定は、この文は兼語文（李临定は「我喜欢他＋因为他诚实能干」と分析している）と理解することも、 V_2 “诚实、能干”を名詞成分と捉え二重目的語文と考えることもできると述べている。

(80) a. 我 喜欢 他 诚实、能干。(兼語文)

V_1 N_{pivot} V_2

b. 我 喜欢 他 诚实、能干。(二重目的語文)

V_1 N_1 N_2

李临定の解釈に従うならば、兼語文 (a) では「私は彼が誠実で有能なので好きだ」の意を表し、二重目的語 (b) では「私は彼が誠実で有能であるのが好きだ」の意を表す。本論では、(b) の構造は二重目的語文ではなく、 N_1 と N_2 が所有関係にあり、 N_1 が N_2 の連帯修飾語として機能していると捉える。つまり、(b) は所有関係を表す構造助詞“的”が生起する次の文と同じ意味を表すと考ええる。

(81) 我喜欢他的诚实能干。

この文は次のような論理構造として記述できる。

(82) 喜欢' {我, 的' (他, 诚实能干)}

この式の第2項の「的' (他, 诚实能干)」は「有' (他, 诚实能干)」と同値であり、「的'」は所有関数として機能している。「的' (他, 诚实能干)」は、「彼が誠実で有能であるという属性を持つ」という意味を表す。「喜欢'」は2項関数として機能し、この文の意味は「私は彼の誠実で有能なところが好きだ」になる。

また、李临定は、“怪”、“怨”、“嫌”のような動詞が構成する文の中には、因果関係を持たず、節目的語文としか理解でないものがあると述べている。

(83) 金桂见婆婆真生气，弄得摸不着头脑，只怪自己不该多事。(李临定 2011, 赵树理)

李临定は、この文の“金桂怪自己不该多事”は「金桂怪自己+因为自己不该多事」(金桂が自分を責めたのは、自分が余計ことをするべきでないからである)という意味に解釈できないとし、次のように分析している。

(84) 金桂怪的是自己不该多事。

(金桂が責めたのは、自分が余計なことをすべきでないということである。)

本論では、このような文は「発言、思考」タイプの節目的語と同様の意味構造を持つと考える。“金桂怪自己不该多事”の論理構造を記述してみよう。“怪”(責める)は、2項述語「怪'(金桂, q)」として記述できる。 q には、“自己不该多事”が表す論理表現が入る。この節が表している「自分は余計なことをするべきでない」は、個体の属性を表してはいないが、「自分が余計なことをする」という命題に対する価値判断を表しているので真偽の決定はできない。そこで、これを内包として記述すると「 $\wedge \neg$ 该多事'(自己)」となる。これを「怪'(金桂, q)」の q に代入すると、次のような式になる。

(85) 怪'[金桂, $\wedge \neg$ 该多事'(自己)]

この式の第2項の「私が余計なことをするべきでない」という価値判断は、金桂自身が行っているので、この命題(の内包)「 $\wedge \neg$ 该多事'(自己)」が「怪'(金桂, q)」に代入されるときに外延化すると仮定できる。つまり、「怪'」によって「 $\wedge \neg$ 该多事'(自己)」に外延演算子が付与される。

(86) 怪'[金桂, $\vee \wedge \neg$ 该多事'(自己)]

内包演算子は外延演算子によって打ち消されるので(ダウン・アップ打ち消し)、最終的には次のような式になる。

(87) 怪’ [金桂, 一该多事’ (自己)]

この式は、節目的語文の論理構造と同じである。このように、“怪”などが構成する文は兼語文と節目的語文の二つの構造を持つと考えられる。

5.2 “喜欢”類兼語文が原因を表すという主張について

“喜欢”のような動詞が原因を表すことは、これまでに多くの研究者が指摘している。たとえば、李临定（2011）は、この類の兼語文を次のように分析している。

(88) 他原谅我小⇒他原谅我+因为我小（李临定 2011: 217）

また、范晓（2009）も同様に、V1に「喜怒哀楽」などの心理活動動詞や、「褒める、貶す」などの意を表す動詞が用いられる兼語文は、語用論的に「原因文」に属すると述べている。范晓は、V2はV1の原因を表すため、「N1+V1+N2+V2」は「(N1+V1+N2)+因为(N2+V2)」や「因为(N2+V2)+所以(N1+V1+N2)」に変換できるとしている。

(89) 他喜欢我聪明勇敢。

→他喜欢我，因为我聪明勇敢。／因为我聪明勇敢，所以他喜欢我。

（范晓 2009: 215）

まず、李临定の解釈を検討してみよう。“他原谅我小”に含まれる「彼が私を許す」と「私が幼い」という命題の関係は、確かに「彼が私を許す」に対し「私が幼い」が原因であると捉えられる。しかし、問題はこれがこの文そのものの意味を表していないということである。同様に、范晓が用いている元の文“他喜欢我聪明勇敢。”と、これを変換した“他喜欢我，因为我聪明勇敢。”、“因为我聪明勇敢，所以他喜欢我。”は意味的に同値ではない。なぜなら、本論で分析したように、文そのものが表す意味としては、“他喜欢我聪明勇敢。”の“我聪明勇敢”は“喜欢”という感情の対象であるからである。では、「N2+V2」（“我小”／“我聪明勇敢”）が主

要動詞（“原谅”／“喜欢”）の原因だとする解釈はどこから出てくるのか。本論では、“小”（幼い）は“我”（私）の属性を表すと述べた。“小”という属性は“我”の部分であるので論理的には切り離すことはできない。しかし、日常的に、「幼い」や「聡明で勇敢である」などの人の持つ属性は、他者にある感情を引き起こさせる原因として作用する。そのため、属性を感情の原因と解釈するのは自然な連想といえるかもしれないが、それは経験的な解釈であって、文そのものが表す意味ではない。

6 結びにかえて

“喜欢”類兼語文と文（節）を目的語にとる節目的語文は、統語的にも意味論的にもよく似た構造を持ち判別が困難であるため、これまでにさまざまな捉え方がなされてきた。本論では、内包演算子を導入した述語論理を用いて両者が構成する論理構造を記述し、これらが異なる特徴を持つことを示した。両者は共に個体（ a ）と節が表す論理表現（ q ）を項にとる2項述語 $P(a, q)$ を構成するが、述語が対象とする意味（第2項に生起する論理表現の指示物）が異なる。本分析では、節目的語文は真偽決定可能な命題を対象とし、“喜欢”類兼語文は個体の属性（内包）を対象とするという仮説を提示し、これらの構造が表す意味の違いについて述べた。

注釈

- 1) Chao (1968: 127) 参照。
- 2) Chao (1968: 125) によれば、兼語は V1 の目的語で、V2 の主語であるので、次のように後半の補足表現中で繰り返し用いられるならば適格文になる。
 - (1) 你得走，我请你。
 - (2) 我怎么办呐，你叫我？
- 3) 英語の不定詞補部節には、CP 層を欠くため直前の他動詞から対格を付与されるという点で例外

的となるものがある。このような節は、例外的格表示節 (exceptional case-marking clause) (または ECM 節) として知られている。また、ECM 節を補部にとる believe のような動詞は ECM 動詞と呼ばれる。(ラドフォード 2006: 115)

- 4) 命題論理 (Propositional Logic) は、形式意味論で用いられる基本的な方法論の一つで、命題 (文) と命題 (文) の関係を記述する。文の間の論理関係は、& (連言)、∨ (宣言)、→ (含意)、¬ (否定) などの結合子によって決定される。
- 5) 述語論理 (Predicate Logic) は、命題の内容 (文の内部構造) を意味論的に分析する論理言語である。基本的には命題を、述語 (predicate) と述語の要求する項 (argument) の組み合わせとして記述する。項の数により、1 項述語、2 項述語、3 項述語のように呼ばれる。
- 6) 何元建 (2011) は、“要” などの動詞を V1 とする使役を表す兼語文も小節を補文にとる構造と分析している。本論では、使役性兼語文の動詞は、項構造としては 3 項を構成するので、2 項の非使役性兼語文とは異なる構造を持つと考える。

参考文献

(中国語)

- 陳建民 1960. 〈论兼语式和一些有关句子分析法的问题〉, 《中国语文》3 期。
- 程琪龍・王宗炎 1998 〈兼语一般句式 and 把字句式的语义特征〉, 《语文研究》1 期。
- 呂冀平 1979. 〈两个平面、两种性质, 词组和句子的分析〉, 《学习与探索》4 期。
- 馬庆株 1992. 《汉语动词和动词性结构》。北京: 北京语言学院出版社。
- 史存直 1954. 〈论递系式和兼语式〉, 《中国语文》3 期。
- 邢欣 2004. 《现代汉语兼语式》。北京: 北京广播学院出版社。
- 范晓 2009. 《汉语句子的多角度研究》。北京: 商务印书馆。
- 何元建 2011. 《现代汉语生成语法》。北京: 北京大学出版社。
- 李临定 2011. 《现代汉语句型 (增订本)》。北京: 商务印书馆。
- 呂叔湘 1979. 《汉语语法分析问题》。北京: 商务印书馆。
- 呂叔湘 1990 [1942 初版]. 《中国文法要略》呂叔湘文集第一卷。沈阳: 辽宁教育出版社。
- 王力 2014 [1943 初版]. 《中国现代语法》王力全集第七卷。北京: 中华书局。
- 溫麗婷 2011. 〈英汉 V1+N+V2 结构句法〉, 《安徽文学》第 4 期。
- 朱德熙 1982. 《语法讲义》。北京: 商务印书馆。

(日本語)

- オールワード・アンデルソン・ダール 1979. 『日常言語の論理学』。東京: 産業図書。
- 柴原和生・松山哲也 2001. 『補文構造』。東京: 研究社出版。

- 白井賢一郎 1985. 『形式意味論入門—言語・論理・認知の世界』。東京：産業図書。
- 杉本孝司 1998. 『意味論 1—形式意味論—』。東京：くろしお出版。
- ダウティー・他著、井口省吾・他訳 1987. 『モンタギュー意味論入門』。東京：三修社。
- 松村文芳 2015. 講義ノート：神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲ a/b
- 吉本啓・中村裕昭 2016. 『現代意味論入門』。東京：くろしお出版。
- 横山昌子 2016. 「現代中国語の使役構文の意味研究」(博士論文)。神奈川大学。
- ラドフォード, A. 著、外池滋生監訳 2006. 『入門ミニマリスト統語論』(新版)、東京：研究社。
(英語)
- Chao, Yuen Ren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley: University of California Press.
- Dowty, David R., Wall, Robert E. and Peters, Stanley. 1981. *Introduction to Montague Semantics*.
Dordrecht, Holland: D. Reidel.

用例の出典先

〈辞書〉

- 刘月华・他 2001. 《实用现代汉语语法（增订本）》。北京：商务印书馆。
- 吕叔湘主编 1999. 《现代汉语八百词（增订本）》。北京：商务印书馆。
- 王砚农・焦虎颀 1984. 《汉语常用动词搭配词典》(英语注释)。北京：外语教学与研究出版社。
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 2016. 《现代汉语词典》第 7 版。北京：商务印书馆。

〈ドラマ〉

- 电视剧《摩登新人类》第 4 集，北京晴心伯年文化传媒有限公司。
- 电视剧《不是不想嫁》第 1 集，北京华世纪影业。
- 电视剧《那样芬芳》第 13 集，浙江影视（集团）有限公司。